

平成18年度学術創成研究費 中間評価結果

研究課題名	植物自家不和合性の分子基盤	研究代表者名	磯貝 彰
-------	---------------	--------	------

1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア ( ) 高い
- イ (×) やや高い
- ウ ( ) やや低い
- エ ( ) 低い

意見：  
アブラナ科の研究は世界のトップレベルの研究であり推進すべきである

2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア ( ) 予定以上に進展している
- イ (×) 概ね予定どおり進展している
- ウ ( ) やや遅れている
- エ ( ) 遅れている

意見：  
タンパク質の構造解析、RNAによるメチル化と発現抑制など新たな知見が得られ今後の発展が期待できる。一方、ナス科、バラ科の研究が少し遅れている。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか

- ア ( ) 研究経費
- イ ( ) 設 備
- ウ (×) 組 織
- エ ( ) そ の 他

意見：  
代表者が副学長となり多忙が懸念される。これまで以上に組織上の問題を考慮して研究を進めて欲しい。

3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか (又はあげつつあるか)

- ア ( ) 期待以上の成果をあげている
- イ (×) 概ね期待された成果をあげている
- ウ ( ) 期待された成果をあげつつある
- エ ( ) 期待された成果はあがっていない

意見：  
大きな成果を挙げている。ナス科、バラ科での発展に期待したい。

#### 4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

ア ( × ) 有機的に連携が保たれている

イ ( ) あまり有機的に連携が保たれていない

ウ ( ) その他

意見:

所属機関の異なる研究分担者との共著論文もあり、連携は保たれている。

#### 5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

ア ( × ) 効率的・効果的に使用されている

イ ( ) あまり効率的・効果的に使用されていない

ウ ( ) その他

意見:

成果からみて、効率的と考えられる。

#### 6 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A +	当初計画を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
×	A	当初計画どおり順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初計画より研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初計画より研究が遅れ、研究成果も見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

総合的な評価意見:

アプラナ科では大きな研究成果がでて国際的にも評価されている。今後、ナス科、バラ科などにおいても研究が進展すること、及びシロイヌナズナへ展開し機能解析が進むことを期待したい。